

遺伝資源の出所開示要件による特許化阻止は有効だが諸刃の刃

- 遺伝資源の出所開示要件による特許の出願制限は有効だが
 - 自己申告制、不正利用・不正出願を見抜くのは困難
 - 世界を監視するのは困難
- 特許出願を阻止することは
 - 自分の利益配分機会つぶしている
- 自国の特許出願も阻止される
 - 自国出願の優遇はダブルスタンダードの非難

遺伝資源の場合 出所開示 遵守証明 必然

伝統的知識利用特許出願には遵守証明が効果的

- 名古屋議定書で、伝統的知識利用に利益配分制度が確定(第5条第5項)
- 国際的不正行為の取締りに効果的
 - ABSクリアリングハウスにアクセス可能
 - 国際遵守証明の同定は容易
- 自国の特許出願を保護するのが容易
 - 伝統的知識保持者の出す出願は、遵守証明の例外と決めることができる

伝統的知識の出所開示要件による特許化阻止は困難

- 伝統的知識の出所開示要件は効果が弱い
 - 大多数の公共のものになった伝統的知識の利用はフリーとの考えが強い
 - 似たような伝統的知識が多く、出所の特定は困難
 - 伝統的知識の知的財産的定義・範囲が不明確
 - 伝統的知識の権利範囲が不明なため、権利外との抗弁に対抗できない

伝統的知識の場合 出所開示 遵守証明

欧州議会の知的財産権に対する制限提案

- 段落28: 法的拘束力のある制度が、利用国の知的財産制度に生物多様性関連措置として導入する最も確実な方法であると信じる
 - 遺伝資源及び関連する伝統的知識の起源の開示を特許の必須要件とする
 - 起源開示には、主題である遺伝資源及び関連する伝統的知識の入手が適用される法的ルールであるPICやMATに従っているという証拠も含める
- 段落30: 主題である遺伝資源及び関連する伝統的知識を利用する企業利用者からの直接申告であることを考慮すると、遵守証明の利用と、国の管轄領域の内での違反調査がバイオパイレシーの可能性を抑制する効果的な方法になり得る

欧州議会全会議決議(2013-1-15)

バイオパイレシー運動

社会責任に訴える新たな阻止手段

ボリビア伝統的作物キヌア米国特許(2)

- ボリビア大統領が国連総会で、国際司法裁判所に作物関連特許の倫理・人権問題に対する意見を求めることを要求
 - ボリビア先住民の食料に、外国の特許審査機関が独占権を与えるのは大きな間違い
 - キヌアはボリビアの主要穀物であり、アンデス全域の先住民の生活を維持しており、独占は先住民を餓えさせる可能性がある
 - キヌア特許はボリビア人の人権を侵害している

伝統的知識の利用国での権利化阻止には人権侵害で世論に訴えるのが最も効果的

バイオパイレシー運動

- 広く流通している伝統的知識はみんなのも、外国人による独占は人権侵害との主張は説得力がある(事例: キヌアの特許阻止)
- NPOあるいは新聞などの宣伝だけで効果がでるので、費用がかからない
- 国民の人権感情に訴えると、賛同が得られやすい
- 簡単に、国民運動に発展しやすい
- 一旦バイオパイレシー発生すると、取捨は非常に困難

名古屋議定書に基づく

伝統的知識(伝統医学知識)データベースの拡大・複合化

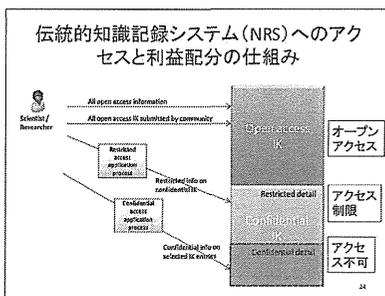
書物情報(医学処方)から口頭情報(薬草栽培・加工知識等)への拡大

南アフリカ: 伝統的知識記録システム(1)
(National Recordal System: NRS)

- 伝統的知識アクセスと利益配分交渉の明確化
- 伝統的知識利用による利益配分の明確化・確実化、ビジネスとの連携
- 口頭伝承情報デジタル化必要: 南アフリカにおける伝統的知識の大部分は口頭によるもので、書面等での記録はほとんど存在しない
- 南アフリカ科学技術省 (CSIR) の伝統的知識システム室 (NIKSO) が、伝統的知識保持者から直接収集、デジタル化 (インドの取り組みに類似)

伝統的知識のデータベース化による権利の拡大

- 権利の固定・明確化、伝承容易化
 - メリット: 知識の消滅防止、権利範囲の特定
 - デメリット: 多様性を反映できない(フレキシビリティがない)、パブリックドメイン不確、発展性がない
- 権利者の固定・明確化
 - メリット: 利益配分の安易化
 - デメリット: 権利者間の紛争、基金方式
- プレミアム化の製品価格転嫁
 - 伝統的知識の利用はライセンス料が必要
 - ライセンス料の製品への転嫁(プレミアム価格、伝統的知識価格)
 - 伝統的知識利用税



名古屋議定書に基づく
伝統的知識権利の法制化

新たな利益配分制度への発展

インドケーララ州の伝統的知識保護政策
知識コモンと利益配分の調和(1)

- 2008年6月伝統的知識保護政策発効、制度実施は困難か?
- 伝統的知識の保護に知識コモンと所有権の調和
- 地域社会・家族所有伝統的知識をケーララ州伝統的知識局に登録認可で、所有権発生
 - 保持する伝統的知識を実施する際に必要なブランド名の権利
 - 商用/非商用目的で保持する伝統的知識を用いる権利(実施権)
 - 伝統的知識を利用したいと考える者は、コモンズライセンスを受けることにより実施権を得ることが可能、ただし所有権は移転しない
 - 新たに加わった進歩・改良は知識コモンズに属することが義務付け
 - 権利の保持者には個人あるいは地域社会があることができるが、中規模から大規模の企業体はならない

タイ独特の法律による農民の権利保護(1)

- 1999年植物品種育種保護法
 - 地域固有植物品種の保護(第4群)
 - 第43条 地域固有植物品種として出願できる植物品種は、
 - (1) タイ国内の特定の地方だけに独自に存在する植物品種
 - (2) 植物新品種として登録されたことのない植物品種
 - 第44条 定住し、かつ文化体系を共同で継承してきた成人に達する者で、共同して保護あるいは開発する者は、共同体として登録を請願することが出来る

インドケーララ州の伝統的知識保護政策
知識コモンと利益配分の調和(2)

- 地域社会や個人に特定できない伝統的知識あるいは一般的に流通している伝統的知識はケーララ州政府が所有者となり登録
 - 法人組織を除くケーララ州の使用権はだれでも非商用目的で使用するライセンスを受けることができる。ただし所有権は移転しない
 - 実質的伝統的知識実行者は、大企業でない限り、自動的に商用目的の実施権ライセンスを受けることが可能
 - 実施権ライセンスはサブライセンスすることはできない
 - 実施権を得た伝統的知識を用いて開発したものはすべて知識コモンズに返還しなければならず、実施権者に特許を出願することはできない

伝統的タイ医療知識の保護と促進法
B.E. 2542における薬草保護・制限

- 第44項: 薬草保護の目的で、……経済的的重要性があるか、または絶滅のおそれのある薬草の種類、特徴、種、名前を決定して管理薬草として公表する権限を持つ
- 第46項: いかなる人も許可なしに商業目的のために管理薬草の調査研究、輸出、処分、加工を行ってはならない。——ライセンス発行申請は省令で規定されているルール、手続き、条件に準ずる

南アフリカHoodiaから開発された食欲減退剤

利益配分？

伝統的知識
素材

Walter Luyt **HOODIA**
Biothrough
Take control over your appetite!

Created 2003, Pure South African Hoodia
Produced in accordance to a Mutual
Agreement with the San Council
and CSIR (South African Council for
Scientific and Industrial Research)

©2005 Hoodia Food, Germany

Hoodia利用に関するSan-CSIR-Phytopharm-Unilever間の原料供給と利益配分契約

Unilever
・研究開発
・マーケティング

Phytopharm
・臨床試験実施
・認可取得
・商業化

CSIR
・基礎研究開発実施
・特許所有者
・前臨床データ提供

Hoodia
・Hoodia利益配分信託基金
・San族、CSIR政府

San族
・伝統的知識保持者

土地所有者
・地域栽培者

Royalty
Royalty
Royalty

原産供給

Hoodiaの栽培と加工

San族はCSIRロイヤリティの6%、マイルストーンの8%

南アフリカの伝統的薬草から得られた利益の先住民配分経験

- 南アフリカ共和国の砂漠地帯の先住民Sanの伝統的知識
- サボテンHoodia gordoniaを食すると食欲が減退する
- 南アフリカ共和国研究機関Council for Scientific and Industrial Research (CSIRと略)
- Hoodiaの食欲抑制作用に関する研究を実施、有効成分の発見
- 特許ライセンスにより利益を得る
- 先住民団体であるSA San CouncilとMOUを締結し、利益配分契約を締結
- San族の利益配分方法
- San族個人には配分はなく信託基金に配分
- 国境の区別がない、国境をまたがりボツワナ、ナミビア、アンゴラのSan族も金融的利益配分の恩恵を受ける権利を有している

Hoodia経験から考案した南アフリカの利益配分システム

Technology Transfer

San Council

CSIR

Industry

Local Direct Markets

International Production

Knowledge

Royalties

Payments

Supply of product

Income from sales

利益配分の管理者

南アフリカ制度の発展系としての利益配分

提供国

伝統的知識保持者

知識提供とロイヤリティ

技術提供利益配分

技術移転、キャピタル

共同研究

研究機関/研究者

発表

学術/データベース

公共知識

ライセンスとロイヤリティ

原料供給と料金支払

消費者

原産利益

各種認定農産品の加算奨励金

フェアトレード認定農産品	加算奨励金(プレミアム)
コーヒー	10 USセント/ポンド
有機コーヒー*	20 USセント/ポンド
カシューナッツ	10 USセント/ポンド
バナナ(インドとスリランカ産)	5.87 ユーロ/kg
バナナ(東アフリカ産)	5 USドル/kg
有機バナナ(ペルー原産)*	1.75 USドル/18.14kg(箱)

*:有機農産物の場合、通常のプレミアム倍率より高い有機プレミアム倍率が設定される。

食品業界では似たような利益配分制度がある 国際フェアトレード制度

- 生産価格保証制度
- 最低価格保証 固定価格
- 加算奨励金(プレミアム価格): 直接利益配分
- 対消費者利益回収制度(特別価格)
- ラベルライセンスシール付とラベルライセンス料を価格に乗せ
- 直接関係者への直接利益配分制度
・ 提供国での利益配分の指導
・ 生活支援活動支援
・ 環境保護活動支援

ご清聴ありがとうございました

ご意見のある方は下記まで

hmorioka@nig.ac.jp
jimmorioka@gmail.com

生物多様性条約・名古屋議定書に関する要請書

平成 26 年 10 月 23 日

外務大臣 岸田文雄 殿
 厚生労働大臣 塩崎恭久 殿
 経済産業大臣 宮沢洋一 殿
 環境大臣 望月義夫 殿

日本バイオ産業人会議
 一般財団法人バイオインダストリー協会
 日本製薬工業協会
 日本漢方生薬製剤協会
 一般社団法人日本種苗協会
 日本化粧品工業連合会

生物多様性条約に附属する「名古屋議定書」に対する開発途上国を中心とする批准国が 50 ヶ国を超え、今年 10 月 12 日に発効した。名古屋議定書は、生物多様性の保全に関する取決めではなく、遺伝資源を提供する側と遺伝資源を利用する側との利益配分に関する枠組みを定め、すこぶる経済的な性質を持つ国際的取決めであり、製薬業、農林水産業、製造業など、幅広く影響を受ける。これらの点を踏まえて、添付のとおり、要請する。

生物多様性条約・名古屋議定書に関する要請書

平成 26 年 10 月 2 日

生物多様性条約に附属する「名古屋議定書」に対する開発途上国を中心とする批准国が 50 ヶ国を超え、今年 10 月 12 日に発効される見込みとなった。名古屋議定書は、生物多様性の保全に関する取決めではなく、遺伝資源を提供する側と遺伝資源を利用する側との利益配分に関する枠組みを定め、すこぶる経済的な性質を持つ国際的取決めであり、製薬業、農林水産業、製造業など、幅広く影響を受ける。これらの点を踏まえて、以下、要請する。

1. 産業界との調整について

名古屋議定書は、2010 年に日本が議長国であった生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) で、政治主導の下で、産業界との調整を経ずに採択された。このため、内容が曖昧であるだけでなく、以下に述べる遡及性をはじめとして一般流通品の取り扱いなど問題が多く残されている。特に、これらについて、名古屋議定書第 15 条 1 項では、資源提供国側が一方向的に義務の内容を法定化し、日本政府が日本の企業等利用者に対して、提供国の法令の内容を問わず遵守を求める構造になりうる点は甚だ問題である。

「名古屋」という日本の都市の名称が付された議定書であるが、批准に向けた議論を行うにあたっては、拙速に走るべきではなく、是非、内容をひとつひとつ丁寧に検討していただくとともに、産業界との調整を十分に経た上で結論を出していただきたい。

2. 「遡及」について

名古屋議定書では、適用対象となる遺伝資源を取得した「時期」について明文による規定がなく、取得時期が生物多様性条約の発効前まで遡るリスクが残っている。仮に、「遡及」が適用されれば、国内で影響を受けうる産業規模は、大幅に拡大しうる（最大 21 兆円）。

先進国は遡及性については否定する立場であるが、批准国 53 ヶ国中 23 ヶ国を占めるアフリカグループは依然として大航海時代に移転された遺伝資源にまで遡って利益配分を求めている。現在の締約国のうち先進国はわずか 7 ヶ国・地域 (EU、デンマーク、ハンガリー、メキシコ、ノルウェー、スペイン、スイス) にとどまっており、アフリカグループ以外の開発途上国で遡及性に賛同する国が増加した場合、日本は遡及性を否定する立場を維持できるのかどうか疑問が残っている。

このため、各国の対応状況が蓄積され、遡及性が確実に否定されると判断できる段階になるまで、我が国は批准を避けるべきである。

3. 中小企業や研究開発への影響

名古屋議定書では、中小企業者に対する配慮が規定されておらず、このため、外国の遺伝資源を活用して生産活動を行っている中小企業者は、突然利益配分を求められ、事業活動が維持できなくなる可能性が残っている。また、研究開発に対する配慮も十分には規定されていないため、利益の配分に関し各国がどのように実行するのかが明確にされなければ、外国の遺伝資源を活用した研究開発自体が後退するとともに、研究成果の実用化が見送られる可能性が高い。これらへの配慮が十分に検討されなければ、我が国は批准すべきではない。

以上

学会等発表実績

委託業務題目「ISO/TC249における国際規格策定に資する科学的研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究」

機関名：東京有明医療大学

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果 (発表題目、口頭・ポスター発表の別)	発表者氏名	発表した場所 (学会等名)	発表した時期	国内・ 外の別
ISO/TC249 第5回全体会議に向けて —国際標準化は日本の鍼灸をどのよう に変えていくのか— (口頭)	東郷俊宏	愛媛 (全日本鍼灸学会第 63回学術大会)	2014. 05. 17	国内
ISO/TC249 が日本伝統医学のあり方 に問いかけるもの —JLOM 活動報告会— (口頭)	東郷俊宏	東京 (第65回日本東洋医 学会学術総会)	2014. 06. 29	国内
ISO/TC249 が日本伝統医学のあり方 に問いかけるもの (口頭)	東郷俊宏	香川 (第42回伝統 鍼灸学会学術大会)	2014. 10. 25	国内
Cultural Aspect of Acupuncture Research and Practice in Japan -Edo period-1950s- (招待講演) (口頭)	Toshihiro TOGO	台北 (The 17th International Congress of Oriental Medicine)	2014. 11. 03	国外
NP18643-1 Categorical structure for representation of acupuncture Part 1: Acupuncture points (口頭)	Yasuyuki Hirose, Toshihiro TOGO	Berlin (ISO/TC215 Plenary meeting)	2014. 10. 6	国外
ISO/TC249 における伝統医学の国際 標準化 —最近1年間の薬物分野の動向— (口頭)	新井一郎	幕張 (第31回和漢医薬学 会学術大会)	2014. 8. 30.	国内
Use of Kampo diagnosis in randomized controlled trials of Kampo products in Japan: a systematic review (口頭)	Motoo Y, Arai I, Tsutani K.	台北 (The 17th International Congress of Oriental Medicine)	2014. 11. 1	国外
米国における dietary supplement と しての中薬製品 —流通品のラベル表示の評価— (口頭)	唐文涛, 池田秀子, 新井一郎, 津谷喜一 郎	神戸 (日本薬学会第135年 会)	2015. 3. 28	国内
Evaluation of the Effects of Acupuncture and Moxibustion for Breech Presentation-A Study Conducted by 4 Clinics- (口頭)	Shuichi Katai, Naoko Maeda, Junko Kaneko, Yoshihiko Koido, Keiko Tusjiuchi, et al,	Houston, Texas, USA	2014. 11. 1-2	国外
モグサ用ヨモギの DNA による系統解 析—日本、中国、韓国のヨモギについ て— (口頭)	松本毅・渡辺均・安 藤匡哉・形井秀一	愛媛 (第63回全日本鍼灸 学会学術大会)	2014. 5. 17	国内
葉緑素を指標としたモグサの等級評価 (口頭)	戸田静男・形井秀一 ・松本毅・會澤重勝	愛媛(第63回全日本 鍼灸学会学術大会)	2014. 5. 17	国内
[シンポジウム「灸の力」座長] (口頭)	形井秀一	愛媛(第63回全日本 鍼灸学会学術大会)	2014. 5. 16-18	国内
[座談会「灸の魅力」座長・演者] (口頭)	形井秀一	愛媛(第63回全日本 鍼灸学会学術大会)	2014. 5. 16-18	国内

発表した成果 (発表題目、口頭・ポスター発表の別)	発表者氏名	発表した場所 (学会等名)	発表した時期	国内・ 外の別
[シンポジウム「日本鍼灸の特徴」座長] (口頭)	形井秀一	東京(第65回日本東洋医学会学術総会)	2014. 6. 28-29	国内
シンポジウム「経絡・経穴研究のこれから」司会(口頭)	形井秀一	第2回日本経絡経穴研究会	2014. 9. 28	国内
学術講演「日本鍼灸の現状」(口頭)	形井秀一	Germany, Bon (ドイツ・タナスエセミナー)	2014. 2. 28-3. 2	国外
学術講演・実技指導「日本式触診法」 (口頭)	形井秀一	Germany, Bon (ドイツ・タナスエセミナー)	2014. 2. 28-3. 2	国外
学術講演「日本伝統鍼灸の歩みと現状」 (口頭)	形井秀一	パリ (France Paris)	2014. 3. 4-5	国外
学術講演「産婦人科疾患に対するあはき治療のリスク管理(妊婦・月経困難症など)について」(口頭)	形井秀一	東京 (日本視覚障害者ヘルスキーパー協会)	2014. 5. 11	国内
学術講演・実技「治療家の手の作り方」 (口頭)	形井秀一	事業協同組合全国鍼灸マッサージ師会	2014. 6. 15	国内
学術講演「肩凝りの針治療の実際、腰痛の針治療の実際」(口頭)	形井秀一	第46回針灸学セミナー、一般財団法人東方医療振興財団	2014. 10. 12	国内
舌撮影解析システム(TIAS)を用いた舌色解析～舌色と内視鏡所見との関係について(口頭)	貝沼茂三郎, 迎はる, 原田裕士, 並木隆雄, 古庄憲浩	東京 (第65回日本東洋医学会学術総会)	2014. 6. 28	国内
医師・鍼灸師が舌撮影解析システム(TIAS)を体験して(口頭)	関根麻理子, 若杉安希乃, 川鍋伊晃, 小田口浩, 花輪壽彦 北里漢方医学的所見プロジェクト	東京 (第65回日本東洋医学会学術総会)	2014. 6. 28	国内
舌撮影解析システム(TIAS)を用いた舌形態判断の検討(口頭)	川鍋伊晃, 小田口浩, 並木隆雄, Mi Xiaoyu, 若杉安希乃, 関根麻理子, 花輪壽彦	東京 (第65回日本東洋医学会学術総会)	2014. 6. 28	国内
開発中の舌色撮影装置の利点・欠点(口頭)	林宏朋, 中島正光, 村上弘樹, 高丸直也, 古川牙次郎, 並木隆雄, 中口俊哉	広島 (第7回広島県臨床工学技士会学術大会)	2014. 6. 1	国内
ISO/TC215/DTS 18062 Health informatics - Categorial structure for representation of herbal medicaments in terminological systems (口頭)	Yasuyuki Hirose	Berlin (ISO/TC215 Plenary meeting)	2014. 10. 6	国外
ISO/TC249/WD 18668-# Traditional Chinese Medicine - Part #: Coding System of Formula	Yasuyuki Hirose, Shunsei Yamamoto, Toshiaki Makino, Hidemi Shiomoto, Hiroshi Asama	Berlin (ISO/TC215 Plenary meeting)	2014. 10. 6	国外
Annex J (informative) Coding system of indications for traditional medicinal products	Yasuyuki Hirose, Shunsei Yamamoto, Toshiaki Makino, Hidemi Shiomoto, Hiroshi Asama	Berlin (ISO/TC215 Plenary meeting)	2014. 10. 6	国外

発表した成果 (発表題目、口頭・ポスター発表の別)	発表者氏名	発表した場所 (学会等名)	発表した時期	国内・ 外の別
ISO/TC215/NP TS 16843-1 Health Informatics - Categorical structures for representation of acupuncture - Part 1: Acupuncture points	Yasuyuki Hirose, Toshihiro TOGO	Berlin (ISO/TC215 Plenary meeting)	2014. 10. 6	国外
ISO/TC215/NP TS 19239 Health Informatics - Categorical structure for representation of stimulation to the somatosensory system	Yasuyuki Hirose,	Berlin (ISO/TC215 Plenary meeting)	2014. 10. 6	国外
Multi-Perspective Coding Design for Representing the Indications of Traditional Medicinal Products (口頭)	Yasuyuki Hirose, Toshiaki Makino, Hiromichi Yasui, Kazunari Ozaki, Masayuki Kashima, Toshihiro Togo, Kengo Nakata, Munenori Saito, Hidemi Shiimoto, Hiroshi Asama, Shunsei Yamamoto	台北 (The 17th International Congress of Oriental Medicine)	2014. 11. 2	国外
Toward Harmonization and Integration of the Knowledge of Traditional Medicines and Modern Sciences - Designation, Concept, Coding, and Mapping - (ポスター)	Toshiaki Makino, Masayuki Kashima, Munenori Saito, Kengo Nakata, Kazunari Ozaki, Hidemi Shiimoto, Hiroshi Asama Shunsei Yamamoto, Toshihiro Togo, Yasuyuki Hirose, Hiromichi Yasui	台北 (The 17th International Congress of Oriental Medicine)	2014. 11. 2	国外

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文 (発表題目)	発表者氏名	発表した場所 (学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・ 外の別
ISO/TC249 第 5 回全体会議・第 5 回ワーキンググループ会議報告	東郷俊宏	医道の日本	2014 年 7 月	国内
ISO/TC249 が日本伝統医学のあり方に問いかけるものは何か (その 1: ISO/TC249 ってなあに?)	東郷俊宏	あはきワールド (メールマガジン)	2014. 8. 6	国内
ISO/TC249 が日本伝統医学のあり方に問いかけるものは何か (その 2: ISO/TC249 が設立された経緯と鍼灸に関連する 2 つの WG の設置)	東郷俊宏	あはきワールド (メールマガジン)	2014. 8. 20	国内
ISO/TC249 が日本伝統医学のあり方に問いかけるものは何か (その 3: WG3 で議論されている滅菌済み単回使用鍼以外の規格案)	東郷俊宏	あはきワールド (メールマガジン)	2014. 9. 17	国内

掲載した論文 (発表題目)	発表者氏名	発表した場所 (学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・ 外の別
ISO/TC249 が日本伝統医学のあり方に問いかけるものは何か (その4: 鍼電極低周波治療器の規格案をめぐる動きと日本の状況)	東郷俊宏	あはきワールド (メールマガジン)	2014. 10. 1.	国内
ISO/TC249 が日本伝統医学のあり方に問いかけるものは何か (その5: 灸機器の規格案をめぐる動きと日本の状況)	東郷俊宏	あはきワールド (メールマガジン)	2014. 12. 3	国内
ISO/TC249 京都全体会議へ向けて(最終回): 国際標準化へ向けて	東郷俊宏	鍼灸柔整新聞	2014. 5 月	国内
ISO/TC249 京都全体会議を終えてー東郷俊宏氏インタビューー	東郷俊宏	鍼灸柔整新聞	2014. 6 月	国内
Use of Kampo Diagnosis in Randomized Controlled Trials of Kampo Products in Japan: A Systematic Review.	Motoo Y, Arai I, Tsutani K.	PLoS ONE	2014	国外
漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG).	新井一郎	漢方と最新治療	2014. 12. 1	国内
ISO における中国伝統医学の国際標準化.	新井一郎	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス	2014 年 10 月	国内
代替医療による間接的な健康被害の実態	津谷喜一郎, 湯川慶子, 長澤道行, 新井一郎, 五十嵐中, 折笠秀樹, 鶴岡浩樹, 福山哲, 元雄良治, 山崎喜比古	薬理と治療	2014 年 12 月	国内
日本のモグサ製造の現状についてーモグサ製造業者へのアンケート調査ー	松本毅, 形井秀一	日本東洋医学雑誌	2014: 66	国内
韓国の蓬ともぐさの中心地江華島を訪ねて	形井秀一	鍼灸 OSAKA	2014. 5. 15	国内
日本の艾の里を訪ねて	形井秀一	鍼灸 OSAKA	2014. 12. 12	国内
鍼灸の世界的広がりが意味するもの	形井秀一	社会鍼灸学研究	2014. 9. 1	国内
世界の鍼灸と日本鍼灸	形井秀一	日本伝統鍼灸学会誌	2014: 41	国内
個体差とドーゼー鍼灸教育の課題についてー	形井秀一, 高松彩	鍼灸 OSAKA	2014. 9. 26	国内
座談会 ISO/249 とモグサアフリカ日本鍼灸の内側と外側	形井秀一, 東郷俊宏, 伊田屋幸子, 川鍋伊晃	鍼灸 OSAKA	2014. 9. 26	国内
Proposal for a New Noncontact Method for Measuring Tongue Moisture to Assist in Tongue Diagnosis and Development of the Tongue Image Analyzing System, Which Can Separately Record the Gloss Components of the Tongue.	Nakaguchi T, Takeda K, Ishikawa Y, Oji T, Yamamoto S, Tsumura N, Ueda K, Nagamine K, Namiki T, and Miyake Y	Bio Med Research International	2014. 11. 9	国外

掲載した論文 (発表題目)	発表者氏名	発表した場所 (学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・ 外の別
The Development of an Abdominal Palpitation Model for the Fukushin Simulator: Towards Improvement and Standardization of Kampo Abdominal Diagnosis,	Yakubo S, Ueda Y, Ishino S, Adachi Hi, Arashima Y, Namiki T, Nakayama T, Yamanaka K, Matsushita K, Tamura M	Int. Med. J	April, 2014	国外
Students' Impressions of an Abdominal Diagnosis Workshop Using the Fukushin Simulator,	Yakubo S, Ueda Y, Muroga K, Tanekura N, Okudaira T, Sasanuma T, Fujita Y, Arashima Y, Nakayama T, Yamanaka K	Int. Med. J	2014	国外
Study of factors involved in tongue color diagnosis by kampo medical practitioners using the farnsworth-munsell 100 hue test and tongue color images.	Oji T, Namiki T, Nakaguchi T, Ueda K, Takeda K, Nakamura M, Okamoto H, Hirasaki Y	Evid Based Complement Alternat Med	2014	国外
多施設での統一した舌診臨床診断記載の作成を目的とした日本の舌診文献調査.	王子剛, 並木隆雄, 三谷和男, 植田圭吾, 中口俊哉, 貝沼茂三郎, 柴原直利, 三瀧忠道, 小田口浩, 渡辺賢治, 藤井泰志, 喜多敏明, 小暮敏明, 小川恵子, 田原英一, 萩原圭祐, 矢久保修嗣, 南澤潔, 村松慎一, 和辻直, 花輪壽彦	日本東洋医学雑誌	2014. 7. 20	国内
中医薬の国際化と標準化に関する中国の政策 第11回: 中国主導の中医薬国際団体—WFCMS	柳川俊之, 津谷喜一郎	和漢薬	2014. 5月	国内
中医薬の国際化と標準化に関する中国の政策 第12回: WHOと伝統医学—1970-1990年代—	柳川俊之, 津谷喜一郎	和漢薬	2014. 7月	国内
中医薬の国際化と標準化に関する中国の政策 第13回: WHOと伝統医学—2000年代の経穴部位国際標準化をめぐる動き—	柳川俊之, 津谷喜一郎	和漢薬	2014. 9月	国内
中医薬の国際化と標準化に関する中国の政策 第14回: WHOと伝統医学—2000年代の伝統医学用語・情報標準化と伝統医学戦略—	柳川俊之, 津谷喜一郎	和漢薬	2014. 11月	国内
中医薬の国際化と標準化に関する中国の政策 第15回: ISOと中国伝統医学—ISOにおける中国の歩み—	柳川俊之, 津谷喜一郎	和漢薬	2015. 1月	国内
中医薬の国際化と標準化に関する中国の政策 第16回: ISOと中国伝統医学—ISO/TC249設立までの経緯—	柳川俊之, 津谷喜一郎	和漢薬	2015. 3月	国内

厚生労働科学研究委託費
(地域医療基盤開発推進研究事業)

ISO/TC249 における国際規格策定に資する
科学的研究と調査および統合医療の
一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究

(H26-統合-一般-002)

平成 26 年度 委託業務成果報告書

受 託 学校法人 花田学園
東京有明医療大学学長 佐藤 達夫
業務主任者 東郷 俊宏

平成 27(2015)年 3 月

